

第3学年2組 道徳学習指導案

日 時:平成30年6月18日(月) 5限

場 所:3年2組教室

1. 主題名 家族の一員としての自覚 [C-(14)家族愛、家族生活の充実]

2. 資料名 「一冊のノート」(出典:文部科学省『私たちの道徳』)

3. 主題設定の理由

(1)ねらいとする道徳的価値について

家庭は、子どもが安心できるよりどころとなる場所であり、子どもを守り育てる教育の場所である。家族と共同して生活しながら、社会の一員として正しく行動しうるための準備が行われる場所ともいえる。家庭を取り巻く状況もさまざまであり、その姿は様々ではないが、その家族同士の温かい信頼関係や愛情によって互いが深い絆で結ばれていることが大切である。中学校の段階では、次第に自我意識が強くなり、自分の判断や意志で生きていこうとする自立への意欲が高まってくる。その結果、自分を支えてくれる存在であるはずの家族の言動が、時に疎ましく思えることもある。

指導に当たっては、自我意識が強まりつつある中で、家族関係を子どもの視点だけでなく、家族それぞれの立場になって考えられるよう、多面的・多角的に捉えることができるように留意したい。

(2)生徒の実態について

5月に行ったアンケートでは、「家庭が楽しい」という項目に肯定的な回答をする生徒が多かった。一方で、家族とあまり話をしない、家庭では多くの時間を自室で過ごしているなど、積極的に関わりをもつことができない生徒も少なくない。中学生という時期は、本当は大切な存在であり、感謝しているにもかかわらず、家族に対して反抗的な態度をとったり、干渉を嫌がって距離を置いたりする傾向が見られる。このような時期に、家族について深く考え、自身がその家族の一員であるという自覚を深めていくことが大切である。

(3)教材について

本資料には、主人公である「僕」と同居している物忘れの多くなった祖母との間に生じたトラブルと、その奥にある祖母の思いが描かれている。祖母に不満を感じ、心無い言葉を発してしまう「僕」は、ある日、祖母が綴った一冊のノートを見つける。そして、そのノートから、日々の生活の中での祖母の苦悩や自分を含めた家族を思う気持ちを知る。感情にまかせて接していた祖母の本当の思いに気づいた「僕」の気持ちを考えることを通し、自身の家族への関わり方を振り返らせたい。

4. ねらい 祖母の苦悩や家族を思う気持ちに気づく主人公の気持ちを通して、家族を敬愛し、その一員としての自覚をもって関わり合おうとする道徳的態度を育てる。

5. 本時の展開

	学習活動(主な発問と予想される生徒の反応)	指導上の留意点
導入	<p>1. 「家族」について考える。</p> <p>○「家族」と聞いて、どんなことが思い浮かぶだろう。</p> <p>・大切 ・優しい ・必要 ・鬱陶しい ・ありがたい</p>	<p>・数人を指名し、テンポよく聞く。</p>
展開	<p>2. 資料の内容を捉える。</p> <p>3. 資料をもとに考える。</p> <p>○問題集がなくなったとき、「僕」は祖母に対してどんな気持ちだっただろう。</p> <p>・またおばあちゃんか.....。</p> <p>・遅刻したらおばあちゃんのせいだ。</p> <p>・もう、うんざり。 ・腹が立つ。</p> <p>○薬局の前で祖母に出会ったとき、どんな気持ちで「知らん顔」をして通り過ぎたのだろう。</p> <p>・恥ずかしい。 ・みんなに笑われる。</p> <p>○「父に話した後怒らないようにしていた」にもかかわらず、「激しく祖母をののしった」「僕」はどんな気持ちだっただろう。</p> <p>・友達がもう遊んでくれなくなったらおばあちゃんのせいだ。</p> <p>・お父さんはああ言ったけど、今回のことはひどすぎる。</p> <p>◎「黙って祖母と並んで草取りを始めた」「僕」は、心の中でどんなことを祖母に語りかけていただろう。</p> <p>・今まで傷つけることばかり言ってごめん。</p> <p>・こんなに苦しんでいるなんて思わなかった。</p> <p>・そこまで僕たちのことを考えてくれていたんだ。</p> <p>・これからは、僕がおばあちゃんを支えるからね。</p>	<p>・登場人物や状況を整理する。</p> <p>・お父さんの話に触れ、「怒らないようにしていた」ことを確認し、それでも祖母につらく当たってしまった「僕」の気持ちを考えさせる。</p> <p>・まずワークシートへ記入させ、指名して発表させる。</p> <p>・なかなか記入できない生徒に対しては、他の生徒の考えに触れるよう促す。</p> <p>・「反省」「気づき」「感謝」「決意」など、さまざまな角度からの意見に触れられるように留意し、板書もおおまかにグループ分けする。</p> <p>・「祖母をののしった」ときの気持ちと中心発問で取り上げた場面の「差」について考えさせる。</p>
終末	<p>4. 本時の授業で、考えたこと、感じたことなどを率直に言葉にする。</p>	<p>・他の人の意見にも着目するよう促し、自分の考えを深められるよう考えさせる。</p>